

— 家庭で育ち 学校で学び 社会へ羽ばたく —

家庭

【中学校段階】

- 【生活習慣+学習習慣・自律】
- ・毎日の朝食をとる。
 - ・部活、家庭学習、睡眠の自己管理ができる。
 - ・ゲームやネットの管理が自分ができる。
- 【家庭の一員として】
- ・やっつけられないことの判断ができる。
 - ・家庭での役割を与え、責任をもつ。

【小学校段階】

- 【生活習慣+学習習慣・自立】
- ・睡眠時間を確保する。
 - ・スポーツ等に親しむ。
 - ・持ち物を確認する。
 - ・学習時間を確保する。
(10分×学年)
 - ・テレビやゲームの約束を守る。
- 【家庭の一員として】
- ・家庭での役割を継続する。
 - ・家庭であいさつをする。

【保育園段階】

- 【小学校への準備】
- ・毎日決まった時間に起きる。
 - ・テレビを見たり、ゲームをしたりする時間を約束する。
- 【基本的な生活習慣 3～5歳】
- ・「早寝、早起き、朝ご飯」の習慣を身に付ける。
 - ・好き嫌いをしないでバランスよく食べる。
 - ・衣服の着脱や食事、排泄などができる。

【しつけ3原則】

- ・よいことはほめ、いけないことは注意する。
- ・元氣よく返事や挨拶をする。
- ・自分の物やみんなで使う物は大切に

↑ ノーテレビ、ノーゲームデーをつくり、団欒や読書を楽しみましょう ↓

食事と言葉と我慢・「我が家の約束」

《今、育てたい子どもの姿》

意欲・志

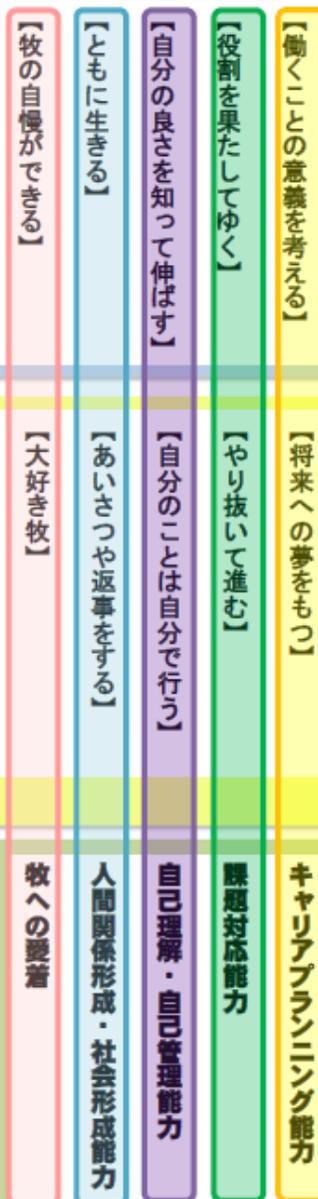
- 【将来の夢を実現させるため自分のよさを伸ばす。】
- ① 仲間と協働して考えを深めることができる。
 - ② 自分のよさや個性が分かり、自分の生き方を考えることができる。
 - ③ 自分の生活習慣を律することができる。

自信・希望

- 【夢やあこがれをもち、最後までやり通す。】
- ① 自分の考えをもち、伝え合う活動を通して考えを深めることができる。
 - ② 自分の長所や短所に気付き、自分らしさを発揮することができる。
 - ③ 健康の大切さに気付き継続して実践することができる。

喜び・夢

- 【好きなことに夢中になる】
- ① 人の話を聞き、思いを自分の言葉で話すことができる。
 - ② 友達と仲良く遊ぶことができる。
 - ③ 簡単な身の回りのことができる。



《子どもを育てる教師・保育士の姿》

中学校

- 生き方講話、職場体験を通して、社会性を育む。
- 成長が実感できる場づくりを行う。

- ① 授業や活動の場面で、自分の考えをもち、仲間と考えを深める場を設定する。
- ② 自治活動、小中合同の活動、地域貢献活動の在り方を考えさせ、主体的に取り組ませる。
- ③ 自分自身の体力、生活習慣の課題を把握させる機会をもち、改善に向け取り組ませる。

小学校

- 牧の人・自然・歴史・文化・できごととの関わりを通して、社会性を育む。
- 夢を育む場づくりを行う。

- ① 自分の考えを書く、伝え合う場を工夫する。
- ② 振り返り活動を充実させ、相手を受け入れ認め合う場を設定する。
- ③ 子どもの生活実態を把握し、自分の生活の課題を振り返る活動を充実させる。

保育園

- ① 一定時間、座って、人の話を最後まで聴けるように、ゆっくりと簡潔に、分かりやすい言葉で話す。また、自分の思いが言えない時は、言葉を補い、表現の仕方を手助けする。
- ② 友達によさに気づき、簡単な約束や決まりが守れるようにする。
- ③ 自分からしようとする姿を認め、達成感を味わわせながら、意欲や態度につなげていく。

地域

たくましく育てる

社会性と自立の基盤

【牧中学校学校運営協議会】

【牧小学校学校運営協議会】

【牧っこを育てる会】

【牧振興会】

【PTA・同窓会・後援会】

見守りと応援・支援

子育てをしながら親も学ぶ

目指す子ども像

互いのよさを認め合い、
主体的に学ぶ子

小中共通取組実践事項

○話し合い活動の充実

- ・互いの良さを生かし合ったり、認め合ったりする話し合い活動や授業づくり

○家庭学習の充実

- ・メディアコントロール期間をそろえ、家庭学習の時間を確保する。
- ・P T Aメールで家庭での協力を呼び掛ける。

[いつ][なんのために][なにを][どのように]しますか？

1 「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業改善

- (1)学力分析
 - ・N R T検査・W e b配信問題を活用して課題の確認と補充を行う。
- (2)授業づくり
 - ・小中独自の授業デザイン（授業5）を活用し、授業を組み立てる。
 - ・資質、能力表を活用した話し合い活動の場を設定する。
 - ・深い学びの姿を設定し、それに到達するための授業を心がける。

2 学習習慣の定着と学習環境の整備

- (1)主体的な家庭学習
 - ・柏葉タイム、終学活の時間における学習計画の立案支援を行い、担任がチェックする。
 - ・家庭学習の意識を高めさせるため、学年発達段階や時期に応じた進路学習に取り組む。
 - ・次の授業につながるような家庭学習の課題を出し、家庭学習習慣の定着を図る。
 - ・課題提出が困難な生徒には、個別に支援をしていく。
- (2)言語活動の設定
 - ・朝読書の取組や読書の時間の確保を年間を通して行う。
 - ・全校集会時に個々の生徒全員が順にスピーチを行う。
 - ・全校生徒で委員会の活動の振り返りを話し合うマキーティングを設定する。

3 小中9年間を見通したカリキュラム・マネジメント（総合的な学習の時間、道徳教育等）

- ・視覚的カリキュラム表を改善・活用する。

◎「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の一層の推進

- 話し合い活動の充実
 - ・聞く、話す指導の徹底
 - ・自分の考えを書く、伝え合う場の設定
 - ・[課題][まとめ][ふりかえり]カードを用いた視覚化

◎ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

- ICTを活用した授業のUD化

◎「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業づくり

- ・単元テスト前の復習の時間を取り入れる。
- ・「生徒指導の三機能」を生かした授業づくり
- ・互いのよさを認め合う授業づくり
- ・聞く、話す指導の徹底、環境づくり
- ・自分の考えを書く、伝え合う場の設定
- ・生活科、総合的な学習の時間を中心に児童の思いや願いを生かした展開の工夫

◎目標と学習と評価の一体化を目指した授業づくり

- ALシートの活用
 - ・7月実施 人権教育、同和教育の授業
 - ・校内研究での活用

◎次の学びにつなげる家庭学習の推進

- 自学の種類ややり方を示す
- 自学の展示会の実施
- 家庭学習カードの活用
- 「牧っ子チャレンジウィーク」の実施

◎学習習慣の定着と学習環境の整備

- 言語活動の設定
 - ・学年相当の読解力を身につけるために、朝読書や読書月間を設ける。

小中9年間を見通したカリキュラム・マネジメント（特別活動、道徳教育等）

- ・視覚的カリキュラム表を改善・活用する。
- ・複式学級の特徴を生かした、カリキュラム編成

目指す子ども像

主体的に他者とかかわり
自他の存在を大切にする子

小中共通取組実践事項

○「家族との絆を深める日」

- ・昨年度までは、毎月第3日曜日に実施、11月にプリント配布。
- ・今年度は、牧っ子チャレンジウィークのうち、年に2回ある「ふれあい」がテーマの週に組み込めないか検討。

○「あいさつ運動」

- ・6月頃、牧っこ探検隊の縦割り班にて行う。
- ・中学生がリーダーシップをとり交流できるようにする。

○「いじめ見逃しゼロスクール運動」

- ・標語の交換や、牧中のMAKIフェスに6年生を招待することなど。
- ・今年度はさらにいじめ見逃しゼロに踏み込んだ内容にしたい。

【いつ】【なんのために】【なにを】【どのように】しますか？

1 自己有用感を育てる取組

- (1)主体的に進める自治活動
 - ・日常的な部活動や委員会活動で自主的、主体的な活動を進める。
- (2)お互いを認め合う活動
 - ・学校行事や生徒会活動、小中合同の行事で振り返りを行い、お互いのよさを認め合う。
 - ・全校スピーチ、MAKIフェスを行い、お互いを理解し合う。
 - ・職員は機会あるごとに生徒一人一人のよさを認め、本人や周囲へ伝えていく。
- (3)地域と関わり地域に貢献する活動の推進
 - ・「牧を熱くしよう」の取組として、地域行事で「よさこい」を披露するなど地域に貢献する活動を行う。

2 進んであいさつをするための取組

- (1)あいさつ運動の推進
 - ・「あいさつの活性化」を推進する。

3 相手への思いやりをもつための取組

- (1)生徒が主体的に取り組む「いじめ見逃しゼロスクール運動」
 - ・生徒会を中心とした「いじめ見逃しゼロスクール運動」を推進する。
- (2)「いじめ」についてのアンケートや人権教育、同和教育の授業を行い、いじめ根絶の意識を育てる。

- ◎縦割り班活動の一層の充実
- 互いの存在を思いやる取組
 - ・縦割り班での人間関係づくり
 - ・文化祭のメッセージ交換
 - ・そうじ、読み聞かせ

- ◎「4つの力」の育成
 - ・人間関係づくり
 - ・ほっとタイム
 - ・家族の絆Day

- ◎道徳教育、人権教育、同和教育の一層の充実
- 「人を大切にする力」をもつための取組
 - ・児童が主体的に取り組むいじめ見逃しゼロスクール運動
 - ・人権教育、同和教育講習会
 - ・学校生活、いじめアンケートを毎月実施し、実態把握に努め、教育相談週間を設ける。

- ◎児童の自発的、自治的活動の推進
- 学校生活をよりよくするための取組
 - ・日常的な活動や委員会の企画による活動で自主的な活動を進める。

- ◎自己肯定感を育む開発的生徒指導の推進
- 進んであいさつをするための取組
 - ・発達段階に応じたあいさつの活性化の推進
 - ・「鏡の中のぼく」（自尊感情の醸成）

小中一貫教育 牧中学校区共通取組実践事項の実践に向けて〔たくましい心身の育成〕

目指す子ども像

運動に親しみ 心豊かに
健康的に生活する子

小中共同取組実践事項

○小中合同体力テスト（2年次）

- ・ 2、3限に実施
- ・ 牧っこ探検隊のグループで体力テストに取り組む
- ・ 結果を分析し、小中共同の重点種目を決めて、その体力の向上に取り組む。

○陸上指導（R2年に実施）

- ・ 小6の陸上大会に合わせて、中学生（陸上部生徒）が小学校へ行き、各種目の指導を行う。

○「牧っこチャレンジウィーク」

- ・ 小中で実施し、アウトメディアに取り組む。

[いつ][なんのために][なにを][どのように]しますか？

1 体力向上の取組

(1)運動意欲を高めるための取組

- ・ 全校体育、異学年合同体育の実施。
- ・ 個人の運動能力に沿った「めあて」を設定し、成就感や達成感を味わえるよう授業を工夫する。
- ・ 授業開始時の準備運動とともに体力を高めるための運動を行う。

2 望ましい生活習慣に向けての取組

(1)実態の把握

- ・ 生活習慣アンケートの実施と結果の活用
- ・ 定期的に生活習慣アンケートを実施し個々の健康課題を確認する。

(2)健康意識を高めるための取組

- ・ 健康生活のめやすを提示する。
- ・ 生徒会による健康意識向上活動を進める。

(3)食育の充実

- ・ 栄養教諭による授業（TT）
- ・ 給食時に食に関する情報提供（一口メモ）を行う。

- ◎体育や遊び、特別活動を通じた運動の楽しさの体感
- ・ 運動用具を充実させ、手軽に運動に親しむことができるようにする。
- ・ 学期に1回程度、委員会活動の一環として運動イベントを開催する。

◎専門性を生かした健康安全、食育の推進

○望ましい生活習慣に向けての取組

- ・ 養護教諭とのTTによる保健指導
- ・ 学校保健委員会の実施や保健だよりなどによる家庭への啓発

○食育の充実

- ・ 栄養教諭とのTTによる食育指導
- ・ 給食時に食に関する情報提供（一口メモ）
- ・ 給食週間の実施や給食だよりなどによる家庭への啓発

◎アウトメディア習慣の推進

- まなび、こころと連携して実施する年5回の牧っこチャレンジウィーク

◎心の健康づくりの推進

- 縦割り班による運動遊びの充実
- レジリエンス教育の研究、研修